

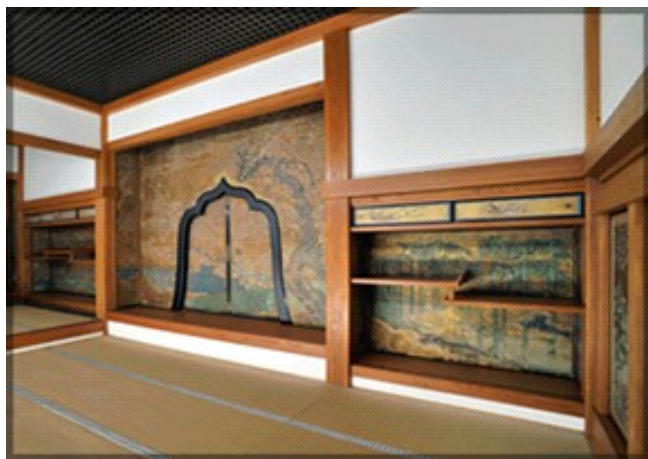
国宝 瑞巖寺

## 上段の間・上々段の間特別公開

期間：H24年1月1日～H24年1月9日

本堂の「上段の間・上々段の間」を宝物館内に再現し、オリジナルの障壁画(国指定重要文化材)を設置しています。文化財保護の為、期間限定で公開しています。

### 【上段の間】



上段は藩主御成りの間。床の「梅竹図」は「梅の高潔・竹の清操」を表し、「牡丹図」は富貴を「花木図」は四季の豊かさを表す。筆者長谷川等胤は幕府の御用も勤めた画師で、伊達家が行った一連の大事業中、瑞巖寺だけの彩画の為に招請された。

### 【上々段の間】



上々段の間は上段の西南に、六畳分突き出した部分で、別に御座の間より大きい違い棚が付属し、西南及び東南は明り障子を建てた書院となる。違い棚には「大椿八千歳」悠久の長寿を保ちしかも吉祥の色である紅白椿が描かれ、天袋の戸襖には平和な悟りの場所に出現する、迦陵頻伽と飛天(天女)が軽やかに舞っている。